

令和6(2024)年度

教養ゼミ (初年次教育科目)

実施状況報告書



福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY

.....【 目 次 】

経済学部 経済学科	1
経済学部 国際経済学科	2
経済学部 税務会計学科	3
人間文化学部 人間文化学科	4
人間文化学部 心理学科	6
人間文化学部 メディア・映像学科	8
工学部 電気電子工学科	9
工学部 建築学科	10
工学部 情報工学科	11
工学部 機械システム工学科	12
生命工学部 生物科学科	14
生命工学部 健康栄養科学科	16
生命工学部 海洋生物科学科	18
薬学部	20

経済学部 経済学科

■ 担当者氏名 _____

(代表) 田中 征史

吉田 卓史、三川 敦、石丸 敬二、李 森、中村 和裕、野田 光太郎、
村松 悠次、助田 曜、高羅 ひとみ、山下陽平、北村友宏、戸村貴史、崔嶧汀

■ ゼミ数、ゼミの学生数 _____

令和6年度新入生167名を、学生番号順に14クラスに分割し、1クラスあたりの学生数は11~12名で実施した。

■ 実施内容 _____

本科目では、初年次教育として新入生が大学での学習にスムーズに移行できることを目的としており、Cerezoでのレポート提出やOutlookのメールの送信などの実習、レポートの書き方の実習のほか、資格検定試験の対策講座やグループワークなどを行った。

動画教材による繰り返し学習が効果的と判断した一部の授業回では、動画教材の閲覧と課題提出を中心とする遠隔授業を実施した。

【クラス担任別の実施内容】

- ・Cerezoを使ったレポート提出の実習、Outlookを使ったメール送信の実習（2回、対面）
- ・グループワーク（3回、対面）
- ・学習指導を含むガイダンス等（6回、対面）

【受講生全体での実施内容】

- ・ビジネス能力検定対策講座（16回、対面）
- ・レポートの書き方講座（3回、遠隔）

■ 教養ゼミの特徴 _____

初年次教育として実施している「教養ゼミ」は、高校から大学への学習環境の移行を円滑にするための学習スキルを身につけ、学習意欲の向上にも一定の効果を上げている。学生が円滑な大学生活を送るために必要な知識や情報の習得を重視しており、大学生活全体を通じて資格取得を促進することを目的に、教養ゼミ内でビジネス能力検定試験の対策講座も実施している。さらに、レポート作成の演習を通じて、基礎的なライティングスキルの向上も図っている。

■ 成果 _____

令和6年度経済学科で実施した教養ゼミの代表的な成果は、以下のとおりである。

- ・ビジネス能力検定3級合格者が125名（昨年度は91名）、2級合格者が79名（昨年度は40名）と大幅に増加するなど一定の成果を示す結果となった。昨年度と比べると、2級合格者は倍増、3級の合格者は30名以上増加しており、初年次学生のビジネス知識の習得や資格取得への意識向上につながる取り組みとして高い成果をあげることができた。
- ・クラス担任別の対面授業回にグループワークを行い、最終的には、プレゼン発表を行うという授業を導入した。グループ内でリーダーを中心に協議や作業分担を行い、プレゼン発表をさせるという、新入生にはやや難易度の高い授業内容であったが、アクティブラーニングとしての学習効果も高く、新入生の熱心な取り組みが見られた。

■ 課題 _____

- ・現状はビジネス能力検定講座が全体の半数を占めており、合格者実績等成果は維持した上でより効率の良い運用が求められている。また、本来の初年次教育の目的である学習スキルの育成、課題探究力、学習力の向上を達成するためには、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションといったアクティブ・ラーニングの機会を増やす必要があると考えている。さらにクラス単位での実施を拡充し、担任教員と学生の間でのコミュニケーションを深めることが重要な課題となっている。

経済学部 国際経済学科

■ 担当者氏名 _____

(代表) ビセット・イアン・ジェームス、吳 青姫、佐野 穂先、鈴木 伸

■ ゼミの学生数 _____

16名（うち留学生1名）

■ 実施内容 _____

1 年次教育プログラムの一環として、私たちは学生が高校から大学への移行をスムーズに行えるよう支援することに焦点を当てました。これは、彼らの教育経験における重要な転機であることを認識していたからです。また、学生が各学期ごとに目標を設定し、進捗を振り返ることで、大学生活を有意義に過ごすための目的意識を持てるよう支援しました。さらに、学生が大学での学業や将来のキャリアにおいて必要となる基本的な学業スキルやその他のスキルを習得できるよう支援しました。これらのスキルは、以下の通り分類されました：学生用ツール：電子メールの使い方及び正しいメールの書き方

学生用ツール1：大学での勉強方法（図書館の利用方法など）

学生用ツール2：プレゼンテーションの方法と、英語と日本語の資料の作成方法

学生用ツール3：小論文の書き方、Microsoft word を使った正しい出典の引用方法

学生用ツール4：Microsoft excel の簡単な分析モデル

学生用ツール5：三蔵祭に向けて、テーマを設定の上、プレゼンテーション資料を作成、発表

■ 授業のねらい _____

広い視野と実践能力を持ち、会計学や経営学を十分に理解し活用できる人材を育成することを目指している。教養ゼミでは、各自が充実した大学生活を送り、卒業後は社会で広く活躍できる人材となるよう、大学生活を送るための学習支援や大学内の各施設の利用案内等を実施する。

■ 教養ゼミの成果等 _____

過去の年と比べて、学生の教員とのコミュニケーション能力（例えばメールのマナーなど）が向上しました。

また、グループワークとコミュニケーションに重点を置くことで、学生が頻繁に協力し合い、互いに支え合えるコミュニティのような雰囲気が育まれました。例年に比べて、メールのマナーなど、教員とのコミュニケーション能力が向上した。

■ 問題点、改善点及び対応策 _____

昨年と比べてグループダイナミクスは改善されたものの、一部の学生はマイクロ経済学やマクロ経済学などの基礎的な経済学の講義で苦労しました。これらの基礎的なスキルは1年次に習得することが不可欠であるため、来年からは教養ゼミに基礎経済学のテーマを組み込む予定です。

経済学部 税務会計学科

■ 担当者氏名

(代表) 堀田彩、飯田 哲也、許 霽

■ ゼミ数、ゼミの学生数

35名

■ 教養ゼミの特徴

- 授業の実施とともに、3人の担任や教務委員による学生へのきめ細かい指導とサポートを行う点

■ 授業のねらい

学生の学力・能力の向上のための基盤を、以下により構築する。

- 教員間ならびに学生間の交流を深め、大学とのつながりを作る。
- 安全に安心して学校生活を送れるようにサポートする。
- 大学における学修への動機付けを高める。
- 資格取得にチャレンジし、各自が自信を持てるようにする。
- 卒業後の進路など、自身のキャリアについて考える機会を提供する。

■ 実施内容

- 大学における学修方法の指導（履修指導、講義の受け方、セレッソの使い方など）
- 図書館ならびに図書館ホームページの利用方法の紹介（データベースへのアクセス方法など）
- 税務会計学科の紹介（教員、授業、コースなど）
- ビジネス能力検定対策講座の実施
- 教養講座受講のアナウンスと出席報告
- 自己紹介やグループディスカッションによる学生間の交流促進
- 大学生活で起こりがちなトラブルに関する注意喚起（詐欺や薬物、宗教の勧誘などの被害防止）
- 学生生活上の困りごととその解決について考えるグループワークとプレゼンテーションの実施
- コミュニケーション・スキルの向上のための訓練（傾聴とディスカッションの実践）
- 大学生活やキャリアに関する質問への回答

■ 成果

- 学生の不安や困っていることに対応できた。
- 著しい単位取得不足、成績不良に陥る者への対応ができた（休学、退学する学生に対しては、担当教員による話し合いがもたれ、学生や保護者の納得や理解が得られた）。
- ビジネス能力検定を積極的に受検し、複数の学生は2、3級同時合格を果たした。

■ 課題

- 大学への適応状況や成績が中位層の学生に対するフォローが少なく、その必要性について検討する必要があると考えられる。つまり、上位者はイベントへの参加や自らの申し出によりフォローする機会が確保される。下位者は、成績不良者への指導や欠席指導などの機会がある。しかし、中位の学生へのフォローは、授業中のみとなる。まずは、中位層の全体的な学習意欲や成績の変動を把握する必要があるだろう。

人間文化学部 人間文化学科

■ 担当者氏名 _____

(代表) 古内 絵里子

■ ゼミ数、ゼミの学生数 _____

全1年次生 40名

■ 授業のねらい _____

- (1) 1年次生が教員全員と顔を合わせるとともに、お互いに交流を深める。
- (2) 大学における学修への動機付けを高める。
- (3) 卒業時の到達目標を明確に意識することで、自分に自信を持つ。

■ 学修の到達目標 _____

大学生として必要なコミュニケーション能力の基礎となる力を身につける。

*コミュニケーション能力の基礎となる力：聴く力、話題に参加する力、質問する力、自分の言葉で自らの考えを表現する、プレゼンテーションする力など。

■ 実施内容 _____

- (1) 1年次生を3班に分け、学科教員がオムニバス的な授業を行った。
但し、第3回と4回は2班で、第1、2、5、11回は全員で実施した。
- (2) 各教員の講義に先立ち、セレッソを通じて事前学習用の資料を配布した。また講義中には、配布資料をふまえた考察や発言の機会を設けた。さらに、期末レポートの執筆や受講者の思考をより深めるための参考文献も提示した。
- (3) 各教員のテーマは下記の通りである。
 - ・青木：「文学の役割」
 - ・重迫：「韻文解説：詩の言葉を分析する」
 - ・原：「記憶の文化—第2次大戦後のドイツ」
 - ・清水：「祈りの行動学」
 - ・柳川：「味覚の歴史を考える」
 - ・古内：「建築で見る日本古代史」
 - ・岩崎：「ちょっと気になる不思議な日本語」
 - ・市原：「ベニヨフスキイの冒険—グローバルヒストリーの一コマー」
 - ・両角：「社会科・地歴科授業はどのような課題に直面し、いかに乗り越えてきたのか」

(4) 講義計画

- 第1回 (4/1) ガイダンスと研究倫理教育
- 第2回 (4/18) 薬物防止研修
- 第3回 (4/25) 図書館／保健管理センターのガイダンス
- 第4回 (5/2) 図書館／保健管理センターのガイダンス
- 第5回 (5/9) 新入生レクリエーション

- 第 6 回 (5/16) オムニバス講義① (青木、重迫、古内)
- 第 7 回 (5/23) オムニバス講義① (青木、重迫、古内)
- 第 8 回 (5/30) オムニバス講義① (青木、重迫、古内)
- 第 9 回 (6/13) オムニバス講義② (清水、原、柳川)
- 第 10 回 (6/20) オムニバス講義② (清水、原、柳川)
- 第 11 回 (6/27) オムニバス講義② (清水、原、柳川)
- 第 12 回 (7/4) 学期末を迎えるにあたっての注意点：レポート、定期試験対策（古内）
- 第 13 回 (7/11) オムニバス講義③ (市原、岩崎、両角)
- 第 14 回 (7/18) オムニバス講義③ (市原、岩崎、両角)
- 第 15 回 (7/25) オムニバス講義③ (市原、岩崎、両角)

(5) 評価

各講義に関するコメントシートの提出に加え、期末レポートを課した。課題は、「授業全体を通じて関心を抱いた、あるいは考えたことをまとめる。その際、授業中に紹介された文献、あるいは自分で調査した参考文献を用いること」とした。

■ 教養ゼミの成果

セレッソに提出された学生からのコメント、期末レポートの内容から、提出した学生については全員が到達目標に達した。採点については、学科教員が分担し、最終的には学科会議において教員全員で確認した。教養ゼミの枠内にとどまらず、その他の講義の内容とも結びつけて考察を深めた学生が複数いたことは大きな成果と考える。

■ 問題点、改善点、対応策

昨年度に引き続き、本年度はすべてのプログラムを対面で実施することができた。そのため学生と教員との間でコミュニケーションをとれたことは成果である。また1年次生に教員の研究の一端を紹介できたことも重要だった反面、学生の取り組みに大きな差異が認められたことは否定できない。欠席が目立つ学生、自主的に取り組む姿勢に欠ける学生へのフォローは次年度も課題であることを申し添えておきたい。

人間文化学部 心理学科

■ 担当者氏名 _____

寺田 和永、大杉 朱美、金平 希、向井 智哉

■ ゼミ数、ゼミの学生数 _____

ゼミ数4、各ゼミに20名もしくは19名の1年生が所属した。

■ 実施内容 _____

<前期>

- ピア・サポート訓練（教員+SA）
自己紹介ゲーム、エゴグラム（性格検査）の実施、他者への印象、傾聴
- レポート作成を学ぶ（教員）
レポートの書き方に関する講義。レポートとは何か、レポートを作成する際の注意点、アカデミックライティングのコツ、“コピペ”的の禁止、メールの書き方、について解説した。また、履修生はこの講義に関する要約型レポートを提出した。
- 新入生歓迎会（2年生主催）
2年生が主体となってドッヂボールを体育館にて実施。
- 保健管理センター学生相談の案内

<後期>

- スタディスキル（教員+SA）
文章要約の方法、論文の構成・読み方、論文の要約
- ビブリオバトル
個人で図書を一冊用意し、それについて、スライドを用いて発表した。
- 保健所によるゲートキーパー講座

■ 教養ゼミの成果 _____

【授業全般】

担任別の4つのゼミ個別での実施と、4ゼミ合同での実施の2形態を取り混ぜながらゼミを開いた。

前期は、ピア・サポート訓練（個別）、レポートの作成方法（個別）、学生相談に関するガイダンス（合同）、新入生歓迎会（合同）が主な内容であった。ピア・サポート訓練では、「ピア・サポートをはじめよう」をテキストに、学生同士がサポートしあうためのスキルの訓練を行なった。レポートの作成方法については、2024年度担当教員4名が協議を重ねて講義資料を作成した。レポートが作文や小論文とどのように異なるのか、どのように書けば説得的に書くことができるのかについて、アカデミックライティングの技法を解説した。また、コピペがなぜ許容されないのか、適切な引用を行うための知識を解説し、研究倫理に関する知識も深めた。履修生はこの講義について「要約型レポート」を作成した。

後期は、スタディスキル（個別）、ビブリオバトル（個別）が主な内容であった。スタディスキルでは、文章の要約方法、論文の読み方から要約方法について、本学科教員が執筆した論文を題材として学習を行った（山崎他（2005）大学生へのピア・サポート訓練による自尊感情や自己開示、社会的スキルへの効果の検討）。また、ビブリオバトルでは、スライド作成や発表の活動を通して、プレゼンテーションに向けた準備や発表といったプロセスを経験した。

【SAからのサポート】

ピア・サポート訓練、スタディスキル、ビブリオバトルでは、各ゼミ1名のSAを利用し、活動の補助が行われた。上級生がSAとして授業に参加することで、1年生のピア・サポート訓練の効果が上がり、グループワークがスムーズに進むなど、学年を越えた交流が促進された。

■ 今後の課題

欠席回数の多い学生への対応を考えていく。グループワーク等に積極的に参加できない学生へのサポートをSAを含めての具体的に検討する。

■ 特記事項

心理学科教員が作成した冊子（ピア・サポート訓練のテキスト）を1年生に配付した。新入生合宿オリエンテーションは昨年同様に中止となった。他方、新入生オリエンテーションでは学生ソポーターが中心となり時間割指導などが実施され、2年生が主体となり体育館でのレクリエーションを企画・実施し、新入生同士のコミュニケーションを促進し、仲間同士で支えあう風土を築くための活動が積極的に展開された。

人間文化学部 メディア・映像学科

■ 担当者氏名 _____

(代表)：渡辺 浩司

■ ゼミ数、ゼミの学生数 _____

ゼミ数：4（一年次担任：筒本、渡辺、洞ヶ瀬、岡田）

ゼミの学生数：15名程度

■ 前期実施内容 _____

- 履修登録など教務関係のガイダンス
- 薬物乱用防止研修
- Zoom や Zelkova、Cerezo、Office365 等、ICT 環境のガイダンス（遠隔講義への対応含）
- 少人数ゼミ（大学での学びについて、ゼミ学生の交流、SNS の活用について、等）
- 就職に関するガイダンス

■ 後期実施内容 _____

- 教養講座への参加を基本とし、受講についての連絡や情報共有をしつつ、個別に面談を実施し、受講態度や課題への取り組み方などを指導した

■ 前期教養ゼミの成果 _____

受講者の将来の夢や目標を実現するために本学科で何を学ぶかを明確にする、学科に関係する職業と学科の教育目標の関係が説明できるようになるという点はおおよそ達成できた。

少人数ゼミと全体ゼミをバランスよく実施し、学生と教員との交流や学生間での交流の機会を設けることで、孤独感や孤立感を緩和し、共に学修する仲間がいることを意識させないようにしたことで、文献購読や資料調査など、一つ一つの課題に取り組む力が身についたように思われる。

■ 問題点、改善点 _____

学生数が増加傾向にあり、異学年を含めた各学生間のつながりをどのように構築・維持していくのかが課題になっている。特に中心的な学習の場となる 19 号館において、少人数ゼミに対応できる環境が十分ではないこともあります。学生同士のコミュニケーション機会をより創出していくための内容検討・環境構築を進めている。

工学部 電気電子工学科

■ 担当者氏名

代表:伍賀 正典

仲嶋 一、歌谷 昌弘、田中 聰、香川 直己、関根 康史、関田 隆一、菅原 聰、沖 俊任、伍賀 正典

■ 実施内容

- 1回目(4/15) 自己紹介
- 2回目(4/22) 授業の受け方、ノートの取り方
- 3回目(5/11) 数学習熟度試験
- 4回目(5/13) 図書館ガイダンス
- 5~8回目(5/20~ 6/6) 小グループゼミ
- 9回目(6/10) これまでの教養ゼミの協働ワークの紹介
- 10~15回目(6/17、6/24、7/1、7/8、7/22、7/29) グループワーク

■ 教養ゼミの成果等

- 初回では授業のオリエンテーションと、各自の自己紹介を行った。
- 2回目では、なスキルとしてのノートの取り方や授業の受け方について指導した。
- 3回目では、数学の習熟度をみるための試験を実施した。
- 4回目では、附属図書館に移動し図書館ガイダンスを受講した。
- 5~8回目では、初回で実施した数学テストの結果から小グループに分けた。この小グループでゼミを行い数学基礎などの学力底上げを行った。
- 9~15回目まで、グループワークとしてテーマごとに分かれて協働作業を行った。各班のテーマは、ロボットのキットを用いたイベントの実施、電子デバイス製作のプロジェクトである。ブレインストーミングや線表を用いたスケジュール、グループでの協調作業を経験した。
- グループワークのチームをもとに、学生有志が成果物を三蔵祭で展示することができた。また、グループワークでのチームをもとに ET ロボコン中四国大会の勉強会、地方大会に出場するチームが結成され、これらの成果から 1年生の有志メンバーが 11月に社会連携センターで開催された、計測自動制御学会中国支部学術講演会で登壇し口頭発表を行った。

■ 問題点、改善策、後期での対応策

- ここ数年、教養ゼミのグループワークを出発点とし、チームを育成し、学外イベント等への参加を試みている。今回のグループワークにおいても、学園祭での展示、学会支部大会の学術講演会発表の成果につながる流れを生み出すことができた。
- 今回の教養ゼミでも、共同作業を実施することでメンバーの親睦を深め、大学での学びや活動に関して興味と関心を高めていくことを試みた。結果として、大学祭のイベント展示、ET ロボコン中四国大会への積極的な参加、1年次生による地方学会での発表を実施することができた。大学の初年次教育の科目という点を鑑みると、学生の興味を惹き、意欲的に取り組んでもらえる課題を提示していくことは望ましい方針であり、今後も深化させていくべきと考える。また、大学での学びのための準備という面では、共同作業での“ものづくり”の体験をベースに、学修や実習での知識や技術の習得に関するモチベーションを上げることに役立っていると考えている。

工学部 建築学科

■ 担当者氏名

(代表・1年担任) 伊澤康一、大畠友紀、酒井要
梅國章、佐々木伸子、佐藤圭一、都祭弘幸、藤谷秀雄、藤原美樹、山本一貴

■ 教養ゼミの目的

建築の初学者に対する入門授業として、「建築」で取り扱うジャンルがデザイン・計画・歴史・環境・構造・構法といった文系から理系にわたる広範な分野を扱うことを知ることを目的としている。

自分が建築学科での学びにおいて、どのジャンルについて取り組んでいきたいかを決めていくための第一歩として、各教員の専門性を活かした内容の少人数ゼミナール形式によるグループワークによって「建築」が取り組むジャンルや内容についての理解を深め、「建築に対する興味」の掘り起こしのキッカケづくりとしていく。

■ 実施内容

授業は、建築への興味と理解を深めていくために、6～7名の学生を全教員がゼミ形式で分担して担当し、第2～14回までを各ゼミ単位でのグループワークを PBL (Problem-based learning : 課題解決型学習) 形式で進め、学生自らが課題を探すことから取り組みを始めた。

各ゼミ単位での取組みにおいて、次の3項目を共通事項としている。

- 1) 対象フィールドは、松永を中心とした備後地域（松永・福山・尾道）を対象にする。
- 2) 設定した「共通テーマ」を基に、各研究室で取組む具体的なリサーチ課題を設定する。
- 3) 具体的に取り組む内容は、各研究室の専門性・特徴を生かした視点・内容で設定する。

R6年度も、「地域の課題を解決する」を共通テーマとして、各ゼミで決めた内容について取り組んだ。第1回は、製図教室に集まり、授業ガイダンスと配属ゼミの発表を行い、第2～第14回は各ゼミ単位でのグループワークを実施し、取り組む課題の設定からリサーチ、発表資料準備などに取組んだ。

第15回は、各ゼミで取組んだ課題についての発表会を製図室2・3で実施した。発表会は、成果物をまとめたパワーポイントで資料を準備し、発表時間5分、質疑応答3分の発表形式で実施した。

■ 教養ゼミの成果

少人数グループワーク形式で課題に取り組んだことで、少人数体制だから可能となる濃密な意見交換・討論や共同作業で実施する資料リサーチや発表資料作りなどの学修活動を展開できた。

■ 課題

成績評価方法として、ゼミ担当による各ゼミ生の取組み評価（50点満点）と教員による各ゼミは票の評価（50点満点）で評価した。今後、さらに学生らの問題意識を高めていくために、学生間での相互評価を評価指標に組み込み、お互いの取り組み内容への関心を高める工夫に取組みたい。

■ 担当者氏名

(代表) 池岡宏

尾関孝史、山之上卓、金子邦彦、中道上、池岡宏、谷口億宇、今井勝喜、宮崎光二、森田翔太、天満誠也、上野貴弘

■ 目的

1年次生に対し初年次教育の一環として、コミュニケーション、ディスカッション、プレゼンテーションなどの能力を伸ばす。あわせて、大学での学び、情報工学科での学びについて詳細を説明し、学生自らが大学でのより良い学びができるよう情報提供と指導を実施する。また、学生は、教養講座を受講し、幅広い学問的視野と教養を身に付ける。

■ 実施内容

授業の実施では、Cerezo を活用した教材配布やアクティブラーニングを行った。具体的な実施内容は以下のとおりである。

- | | | |
|------------|-------|----------------------------------|
| 第 1 回 | 04/15 | 教養ゼミについて、自己管理、倫理、進路と資格取得、履修登録の案内 |
| 第 2 回 | 04/22 | 教務（履修指導、ポリシー、欠席、休講・補講、試験、GPA など） |
| 第 3 回 | 05/11 | 就職（キャリア形成、情報工学科卒業生の進路など） |
| 第 4 回 | 05/13 | 学生生活（薬物乱用防止研修など） |
| 第 5 回 | 05/20 | 資格取得（IT 系の資格、資格試験合格による単位認定など） |
| 第 6 回 | 05/27 | IT パスポートに関する説明・体験、図書館オリエンテーション |
| <教養講座 第1回> | | 05/24 |
| 第 7 回 | 06/17 | レポートの書き方、プレゼン資料の作り方、タイピング練習 |
| <教養講座 第2回> | | 06/24 |
| 第 8 回 | 07/08 | IT パスポート演習、三蔵祭参加活動について、個別面談 |
| <教養講座 第3回> | | 09/25 |
| 第 9 回 | 10/18 | 三蔵祭スタッフとして参加（グループ活動、地域交流） |
| 第 10 回 | 10/19 | 三蔵祭スタッフとして参加（グループ活動、地域交流） |
| <教養講座 第4回> | | 10/29 |
| <教養講座 第5回> | | 11/29 |

■ 成果等

教養ゼミを通じて、大学生活の効果的な過ごし方や各種大学施設の適切な利用方法について学習した。授業では学生同士のコミュニケーション機会を積極的に設け、学生間の交流促進を図った。また、今後の授業において必要となる ICT の基礎、レポート作成技法、プレゼンテーション技術など、学修に不可欠な基礎知識の習得を図った。三蔵祭への参加を通じて、グループ活動における協働の意義と楽しさを実体験するとともに、地域住民の幅広い年齢層との交流を行い、社会人として求められる人間力の向上に取り組んだ。

工場用機器システムアーキテクチャ

■ 担当者氏名-

木村純壯, 真鍋圭司, 坂口勝次, 加藤昌彦, 中東潤, 中村格芳, 小林正明, 金谷健太郎

■ ゼミの学生数

クラス全体9名、 テーマ別ゼミ（4～5名の2グループ）

■ 実 施 内 容

- | | |
|------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | 薬物禁止セミナー 担当：木村、小林 |
| 第2回 | 基礎教養ゼミ（1） 学科の学修について 担当：加藤 |
| 第3回 | 基礎教養ゼミ（2） 機械工学の歴史 担当：加藤 |
| 第4回 | 基礎教養ゼミ（3） 機械工学の歴史 担当：加藤 |
| 第5回 | テーマ別ゼミ 2グループで実施
Aグループ 数式に親しもう 担当：真鍋
Bグループ クリーンエネルギーについて 担当：坂口 |
| 第6回 | テーマ別ゼミ 2グループで実施
Aグループ ロボットと制御について考えよう 担当：木村
Bグループ 3Dプリンタでのものづくり 担当：加藤 |
| 第7回 | テーマ別ゼミ 2グループで実施
Aグループ 課外活動のすすめ 担当：中東
Bグループ xRモノづくりについて 担当：中村 |
| 第8回 | テーマ別ゼミ 2グループで実施
Aグループ モノづくりを楽しむ 担当：小林
Bグループ 図書館オリエンテーション 担当：金谷 |
| 第9回 | 特別講義「企業における開発・設計」：ダイキヨーニシカワ(株) |
| 第10回 | 企業見学 ホーコス 本社工場 9月18日 午前 |
| 第11回 | 教養講座(1) 未来を創る「学び」の地から一自省利他が拓く共創社会-
(入澤 崇 講師) |
| 第12回 | 教養講座(2) 祖父 清六から聞いた「兄 宮澤賢治」 (宮澤 和樹 講師) |
| 第13回 | 教養講座(3) メディア社会とあいまい情報 (佐藤 卓己 講師) |
| 第14回 | 教養講座(4) 社会における科学技術とは (松井 博和 講師) |
| 第15回 | 教養講座(5) 認知症への正しい理解と今自分に出来ること (浦上 克谷 講師) |

■ 教養ゼミの成果等

第1回目は、薬物禁止セミナー、第2回から4回目までは、学科の学修やカリキュラム、機械工学の歴史などについて1年生全体に対して説明を行った。これからの学修に関する重要事項であり、1年生にとって有意義だと思われる。その後、第5回から8回目までは、4~5人の2グループに分かれてテーマ別ゼミを実施した。学習意欲を高めるように各担当教員により様々なテーマを扱ったゼミを実施し、専門教育に繋がる内容も多かった。各テーマは1コマであったが、学生の興味・関心を意識してテーマ選定を行った。第9回、第10回は、それぞれ企業講師による特別講演と企業見学を実施した。どちらも学生たちにとって貴重な体験になったと思われる。

■ 問題点、改善点、次年度までの対応策

本年度は学生数が少なく、各教員による個別ゼミを変更し、2グループでのテーマ別ゼミ形式で実施した。そのため、各テーマは1コマしかなく、学生にとっては物足りなかつたかもしれない。急な対応が必要となつたため、授業の一部で予定を変更せざるを得なかつた。

生命工学部 生物科学科

■ 担当者氏名 _____

(代表) 松崎浩明
山本覚、久富泰資、岩本博行、佐藤淳

■ ゼミ数、ゼミの学生数 _____

学生数: 23

■ 教養ゼミの目的 _____

生物科学科の教養ゼミは、初年次教育として受講生が高校から大学の学修・生活へスムーズに移行すること、セミナーや大学祭を通して受講生同士及び受講生と教員間で密にコミュニケーションを取ること、目標を立て達成することで自己を成長させること、一般教養を高めることなどを目的としている。

■ 実施内容 _____

<前期>

- 第1回 教養ゼミガイダンスおよびオリエンテーションの補足
大学での学修に向けて -「大学での履修」を考える-
- 第2回 大学での学修に向けて -「生徒と学生の違い」を考える-
- 第3回 学生生活について -どのような学生生活を送るかを考える、自己管理術、年間目標の作成-
- 第4回 大学での学修に向けて -学修スキル（講義の聴き方、ノートの取り方）を学ぶ-
- 第5回 大学での学修に向けて -図書館やネットの利用による情報収集を学ぶ-
- 第6回 第1回教養講座 入澤 崇先生 「未来を創る「学び」の力—自省利他が拓く共創社会—」
- 第7回 大学での学修に向けて -学修スキル（リーディング）を学ぶ-
- 第8回 大学での学修に向けて -実験レポートの作成法を学ぶ
- 第9回 -バイオサイエンスの歴史 -生物機能利用・古典-
- 第10回 -バイオサイエンスの歴史 -生物機能利用・現代-
- 第11回 第2回教養講座 宮澤 和樹先生 「祖父 清六から聞いた「兄 宮澤賢治」」
- 第12回 植物の栽培 -福山大学ワインプロジェクト概説-
- 第13回 大学祭学科展示の企画 -過去の展示企画の紹介、過去の展示企画に対する意見・感想-
- 第14回 前期の学修・生活を振り返って -前期の総括を行い、後期にどのようにするか考える-
- 第15回 大学祭学科展示の企画 -展示企画を考える-

<後期>

- 第16回 第3回教養講座 佐藤 卓己先生 「メディア社会とあいまい情報 —ネガティブ・リテラシーのすすめ」
- 第17回 夏休みの出来事のまとめ、大学祭の準備 -大学祭の展示物の作成-
- 第18回 大学祭での展示発表-
- 第19回 大学祭の総括
- 第20回 第4回教養講座 松井 博和先生 「社会における科学技術とは」
- 第21回 生物多様性・しくみ
- 第22回 生物多様性・由来生物
- 第23回 生物科学科における研究 -大学ホームページ、研究室訪問による研究の調査-

- 第24回 生物科学科における研究 -研究紹介の発表原稿の作成-
- 第25回 第5回教養講座 浦上 克哉先生 「認知症への正しい理解と今自分にできること」
- 第26回 キャリア設計 -卒業後の進路の可能性について知る、挨拶、マナー、礼儀を知る-
- 第27回 キャリア設計 -資格取得やインターンシップについて知る-
- 第28回 最近のトピックス
- 第29回 2年次の学修に向けて -将来の夢を実現するための学修計画を立てる-
- 第30回 1年次の学修・生活の総括 -学修・生活を総括し、どの様な教養を身に付けたか考える-

■ 成果について

- (1) 教員が受講生と緊密なコミュニケーションを図りながら、「大学での履修」、「生徒と学生の違い」、「学修スキル」の解説、大学における学生生活の指導を行うことで、受講生が高校から大学の学修・生活にスムーズに移行でき、また学修意欲を高めることができた。
- (2) 年間目標を設定することで充実した生活を送れ、目標を達成することで自己を成長させることができた学生がある程度いると思われる。
- (3) 生物機能利用や生物多様性を紹介する講義の受講や生物科学科における研究の調査によって、生物科学に対する興味が増し、学修意欲が向上した。また、最近のトピックスの情報を新聞、テレビ、インターネットのホームページなどから収集する方法と情報の整理方法を学んだ。実際に最近のトピックスに関する情報を収集して、その信憑性を評価した。
- (4) 講義の聴き方、ノートの取り方、リーディング、実験ノート作成、実験データ整理、レポート作成を指導することで、学修スキルとこれらを行う習慣を身に付けることができた。
- (5) 大学祭の学科展示の企画、準備、展示発表によって協調性、自主性、コミュニケーション力、プレゼンテーション力が向上した。また、教員、友人、先輩との信頼関係を構築できた。
- (6) 挨拶、マナー、礼儀を幾らか醸成することができた。
- (7) 卒業後の進路や将来の夢について考え、これらの実現に向けて、キャリア設計を検討し、2年次の学修計画を立てた。

■ 次年度への課題

- (1) 大学祭の準備で他の学年との連携がスムーズに行えず、準備が効率良く行えなかった。他の学年と合同で準備を行える機会を設け、準備を効率良く行い、協調性、自主性、コミュニケーション力などの育成効果を高めたい。
- (2) アクティブラーニングとして、大学祭の展示発表を実施した。展示発表では、来客者が訪れても、積極的に展示の紹介・説明をできなかつた学生が幾らかいた。次年度はさらに積極的行動するように指導したい。
- (3) 最近のトピックスについては、何回か課題を提出することで幅広い教養を身に付ける効果があるので、提出の機会を設けたい。
- (4) 年間目標をさらに立て易いようにフォーマットを改変したい。

生命工学部 健康栄養科学科

■ 担当者氏名

(代表) 菊田安至
井ノ内直良、石井香代子、菊田安至、西 彰子、吉田純子、村上泰子、山田直子、中崎千尋

■ ゼミ数、ゼミの学生数

学生数：26 ゼミの学生：4~5名 (クラスの全体授業と少人数制ゼミを組合せて実施)

■ 前期実施内容

- | | |
|----------------------------------------------------------------------|----------|
| 第 1 回：大学生活を始めよう① 学生生活指導 | (村上、中崎) |
| 第 2 回：大学生活を始めよう② 安全な学生生活について | (村上、中崎) |
| 第 3 回：大学生活を始めよう③ 大学施設を知る 図書館見学、研究倫理 | (井ノ内、菊田) |
| 第 4 回：大学生活を始めよう④ 社会人基礎力 話す力、大人のマナー
(敬語の使い方、恥ずかしくない話し方) | (石井、山田) |
| 第 5 回：大学生活を始めよう⑤ 社会人基礎力 電子メール、
SNSの活用 (短い言葉で伝える) | (菊田、山田) |
| 第 6 回：大学生活を始めよう⑥ 社会人基礎力
文章表現の力 (手紙を書いてみよう) | (井ノ内、西) |
| 第 7 回：大学生活を始めよう⑦ 社会人基礎力
学校・職場で必要な表現力 (答案・レポートの書き方、メモの取り方) (西、井ノ内) | |
| 第 8 回：第1回教養講座：未来を創る「学び」の力
—自省利他が拓く共創社会— | 講師：入澤崇氏 |
| 第 9 回：管理栄養士をめざす① 臨地実習から考えよう グループワーク | (石井、西) |
| 第 10 回：管理栄養士をめざす② 将来を意識して学ぶ (コース制) | (菊田、山田) |
| 第 11 回：つながる (協働) 大学祭への参加① 説明と企画 | (村上、中崎) |
| 第 12 回：第2回教養講座：祖父 清六から聞いた「兄 宮澤賢治」 | 講師：宮澤和樹氏 |

■ 後期実施内容

- | | |
|---------------------------------------------------|-------------|
| 第 13 回：第3回教養講座：メディア社会とあいまい情報
—ネガティブ・リテラシーのすすめ | 講師：佐藤卓己氏 |
| 第 14 回：つながる (協働) 大学祭への参加② 實施計画・役割分担 | (村上、中崎) |
| 第 15 回：つながる (協働) 大学祭への参加③ 協働して準備 | (村上、中崎) |
| 第 16 回：つながる (協働) 大学祭への参加④ 協働して準備 | (村上、中崎) |
| 第 17 回：つながる (協働) 大学祭への参加⑤ 協働して準備 | (村上、中崎) |
| 第 18 回：つながる (協働) 大学祭への参加⑥ コミュニケーション能力を試す | (村上、中崎) |
| 第 19 回：つながる (協働) 大学祭への参加⑦ 大学祭を振り返る | (村上、中崎) |
| 第 20 回：第4回教養講座：社会における科学技術とは | 講師：松井博和氏 |
| 第 21 回：管理栄養士を目指す① 管理栄養士の仕事：
病院、福祉施設ではたらく | (村上、菊田) |
| 第 22 回：管理栄養士を目指す② 管理栄養士の仕事：
学校、保健所、スポーツ施設ではたらく | (西、吉田、山田) |
| 第 23 回：管理栄養士を目指す③ 管理栄養士の仕事：
会社・企業・法人ではたらく | (井ノ内、石井、中崎) |
| 第 24 回：管理栄養士を目指す④ 栄養価計算方法 1 | (吉田) |
| 第 25 回：管理栄養士を目指す⑤ 栄養価計算方法 2 | (吉田) |

- 第 26 回：管理栄養士を目指す⑥ 栄養価計算方法 3 (吉田)
- 第 27 回：管理栄養士を目指す⑦ 栄養の研究
卒業研究を視聴し、研究を理解する (村上、中崎)
- 第 28 回：管理栄養士を目指す⑧ 国家試験の受け方 (菊田)
- 第 29 回：第 5 回教養講座：認知症への正しい理解と今自分にできること 講師：浦上克哉氏
- 第 30 回：1 年を振り返る この 1 年を振り返る、自らの成長と次年度への抱負 (村上、中崎)

■ 教養ゼミの成果

令和 6 (2024) 年 4 月より、学科名称を変更し (生命栄養科学科 → 健康栄養科学科)、三つのコース制を設置した。これにともない、例年実施してきた管理栄養士課程としての初年次教育に加えて、新しい学科での学びや各コースの特色等をしっかりと理解するための授業を開設した。

前期は、大学生となって学びを開始することに重点を置き、授業の受け方やノートの取り方など、大学生活における学修の基本事項を指導した。また、管理栄養士の基礎知識を学び、プロフェッショナルとしての意識付けのスタートアップ授業を行った。

後期は、大学祭を機会にコミュニケーション能力の向上を目指し、大学祭の展示物作成に協同して取り組んだ。上級生の給食実習、臨地実習、卒業研究などを垣間見ることで、これから学びの予習を行った。また、管理栄養士としての将来を考える授業により、職業選択を見据えた学修を促した。

■ 問題点、改善点、次年度に向けた課題

管理栄養士の専門職としての意識付けが、将来の職業選択に重要であり、延いては学習の目標を明確にすることにつながる。本学科では、管理栄養課程における学修の理解や将来の展望が十分でない学生が入学する事例があり、これがモチベーションの不足、学業の不振につながることが多い。この流れを食い止めるために、初年次教育を毎年見直しながら対応している。次年度は、2 年目を迎えた学科のコース制をさらに進め、体験的に学ぶ機会を増やす。

生命工学部 海洋生物科学科

■ 担当者氏名 _____

(代表) 我如古 菜月

■ ゼミ数、ゼミの学生数 _____

ゼミ数：16

ゼミの学生数：6-7名

全学生数：105名

■ 前期実施内容 _____

- 1) 全体ガイダンス：教養ゼミの内容説明、履修、授業（セレッソの小テスト、レポートの提出対応など）、試験、学習支援等の補足説明、セキュリティーソフトのインストール対応、研究者（学生）に求められる研究倫理の講習
- 2) 薬物乱用防止に関する動画の視聴及びスマートグループディスカッション
- 3) 因島キャンパス見学
- 4) 個人面談-学生生活、欠席調査など
- 5) 図書館の利用法によるガイダンス
- 6) 大学祭の展示企画-1 テーマおよび展示の原案作成-スマートグループディスカッション
- 7) 大学祭の展示企画-2 テーマおよび展示の原案作成-スマートグループディスカッション
- 8) 大学祭の展示企画- テーマの決定-全員でディスカッション
- 9) 大学祭の展示企画- 大学祭の物品リストの作成- テーマごとにディスカッション
- 10) 前期定期試験への心構え

■ 後期実施内容 _____

- 1) 履修登録の補足（履修確認、辞退など）
- 2) 大学祭の計画-工程表の作成
- 3) 大学祭の準備-1 ポスター、看板、展示物の作成、準備作業の役割分担等
- 4) 大学祭の準備-2 水槽のセットアップ、金魚の飼育、射的コーナーの的の作成、看板作成、景品作成、展示魚類の搬入等
- 5) 大学祭の準備-3 会場の設営、展示物の備え付け、大学祭当日の役割分担およびスケジュールの調整等
- 6) 大学祭- 来場者への対応
- 7) 大学祭- あとかたづけ
- 8) 個人面談-欠席調査など
- 9) 大学祭の反省会
- 10) 後期定期試験への心構え

■ 教養ゼミの成果等 _____

- 1) 本学の活動指針に基づき、前年度に引き続き前期から1学年105名を大講義室に集めての対面授業を実施することができた。2024年1月に発覚した本学学生の薬物使用事件を踏まえて学内全体で薬物乱用防止教育が行われており、本授業においても薬物乱用防止に関する動画の視聴及び少人数のグループに分かれ、どのように防止するのがよいか等を話し合い発表することで、学生同士コミュニケーションをとることができた。

- 2) 学生生活や教務（履修方法、欠席調査、ゼルコバやセレッソなど ICT サービスによる操作方法、定期試験への対応など）の情報を学生に周知させ、サポートすることができた。
- 3) 学祭展示企画のテーマを決定するために各グループで提案された企画案について全体討議を行うが、その司会進行を学生に任せている。今年度も引き続き学生が立候補して 2 名が司会進行役及び書記を務めた。
- 4) プロダクトとして大学祭の展示企画（3つのテーマ、展示内容、必要物品等）についてまとめることができた。テーマ：1) 射的コーナー・2) 縁日コーナー・3) ミニアクアリウムコーナー・4) 金魚すくい（定番）。
- 5) 今年度も昨年度と同様、テーマごとに学生が積極的にリーダー、副リーダー、書記に立候補し、その運営に尽力してもらった。しかしながら、各コーナーのスタッフ間で、最終的にどのようにするか情報がシェアできておらず、リーダーが休んでしまうと他のメンバーが何をしたらいいのか分からずということが多発した。さらに、コーナー間でもあまり連携が取れておらず、同じ物品を使用した時に片方が使い切ってしまったりする事があった。
- 6) 大学祭を通じて学生同士の団結力（仲間意識や絆）を高めることができ、イベントに参加したことでやりがいを感じたようだ。大学祭を通じて友人がつくることができたと回答する学生がいる一方、大人数で何かをやることが苦手な学生にとっては結構苦痛だったようだ。
- 7) 大学祭の来場者（小中学生や高齢者、親子連れなど）への応対を通して、教員や学生以外の人とコミュニケーションをとる経験ができた。
- 8) 大学祭の水槽や展示物、展示室などのかたづけ作業では男子も女子も、積極的に行ってくれたので責任感をもたせることができた。
- 9) 学生 1 人ひとりに、自分が担当した展示企画の問題点、反省点、今後の改善点、学科展示に参加した感想などをそれぞれ、まとめてもらい、自己評価を行った。

■ 問題点、改善点、対応策

- 1) 大学祭は基本的に全員参加であるが、一部の学生は執行部の三蔵委員や各サークルに所属しており、大学祭の期間は執行部やサークル活動の仕事にそれぞれ専念してもらつた。その際、大学祭当日は学科の展示に参加できないことを各グループのリーダーおよび教員に報告させた。しかし当日に連絡なく欠席する者もあり、一部の学生の負担が大きいことも問題となつた。
- 2) 恒例となっている金魚すくい以外に、何種類かの魚を展示する企画を設けたが、大学祭当日だけでなく前後の飼育についてどう考えているのか等具体的にイメージすることができておらず、水槽展示に詳しい教員がかなりサポートをすることとなつた。さらに、昨今の物価上昇も相まってか、金魚や展示用の魚が一体どれくらい納品可能なのかが直前まで分からず混乱した。海洋の学生は魚が好きで飼育している人も多いが、イベントで扱うとなると不慣れな学生も多く、指導する教員の負担が重かった。
- 3) 教養ゼミの一環として大学祭に展示等を行っているが、特に今回はただのお祭り要素が大きくなってしまった。また、物品の入手に時間がかかり、教養ゼミ時間内では準備が終わらず学生や教員の負担は大きかった。展示内容を企画し、話し合い、実行して来場者を喜ばすことは果たせたと思うが、本来の教育効果、学生や教員の負担感等を考えると、展示内容や方法を再検討する必要があることが明らかとなつた。
- 4) 教養ゼミの時間割調整が難しい。本学科では学生実験や会議、出張等によって一部の教員はスケジュール合わせができないことがある。また、因島キャンパス専任の教員は、因島キャンパスから本学に移動するため、「Zoom」などの ICT サービスを積極的に活用して個人面談や遠隔授業を取り入れ、きめ細やかな学生生活のサポートを行っていく。

薬 学 部

■ 担当者氏名 _____

(代表) 山下純

(担当) 前田 順伸、高根 浩（薬学入門担当）

佐藤雄己、高山健人、本屋敷敏雄、中村徹也（クラス担任）

井上裕文、広瀬 雅一（薬学入門担当、クラス担任）

■ ゼミ数、ゼミの学生数 _____

新入生 102 名に対し、薬学入門 I ならびに教養講座において教養ゼミを実施した。

■ 実施内容 _____

1 薬学入門 I (担当責任者: 山下純)

4月22日と5月27日は、外部講師による対面授業を行った。(肌色と黄色の背景)。4月10日、15日、5月8日、13日、20日、7月17日、22日は、学年を3つのクラスに、クラスをさらに3つのグループに分けて、グループ単位でスマートグループディスカッション(SGD)を行い、薬学入門担当教員(1名)ならびに(または)クラス担任(1名)がチューターとしてクラスごとに指導を行った(青色背景)。6月17日～7月10日は、グループ単位で病院薬剤部及び保健調剤薬局を1施設ずつ訪問し早期体験学習を実施した(緑色背景)。また、今年度は4月17日に「薬物乱用防止研修」を実施した。

※日程・授業概要は別紙参照

2 教養講座 (担当責任者: 山下純)

第1回教養講座

令和6年5月24日(金)

講師: 入澤 崇 氏(龍谷大学 学長)

演題: 未来を創る「学び」の力—自省利他が拓く共創社会—

第2回教養講座

令和6年6月27日(木)

講師: 宮澤 和樹 氏(株式会社 林風舎 代表取締役)

演題: 祖父 清六から聞いた「兄 宮澤賢治」

第3回教養講座

令和6年9月25日(水)

講師: 佐藤 卓己 氏(上智大学文学部新聞学科教授、京都大学 名誉教授・京都大学総長

首席学事補佐、紫綬褒章受章者)

演題: メディア社会とあいまい情報 一ネガティブ・リテラシーのすすめ

第4回教養講座

令和6年10月29日(火)

講師: 松井 博和 氏後(北海道大学 名誉教授、(一社) 札幌農学同窓会 理事長、日本応用
糖質科学会会長、北海道食の安全・安心委員会 GM部会長などを歴任)

演題: 社会における科学技術とは

第5回教養講座

令和6年11月29日(金)

講師: 浦上 克哉 氏(鳥取大学医学部保健学科認知症予防学講座(寄附講座)教授、一般社団
法人日本認知症予防学会 代表理事、北翔大学客員教授)

演題: 認知症への正しい理解と今自分にできること

■ 教養ゼミの成果等

学生が主体となって能動的に学習・情報共有、さらに体験することによって『気づきの学習』を実践することで、学生の行動変容のためのきっかけ作りになる。上記の学習により、次の事項について向上ならびに醸成を得たと考える。

- ・学生一教員間ならびに学生同士のコミュニケーションの活性化
- ・薬学生としてのモチベーションの醸成
- ・情報の収集と処理ならびにプレゼンテーションなどの能力の向上
- ・能動学習のための動機づけ
- ・問題解決能力の向上
- ・挨拶、マナー等の社会性の涵養

■ 問題点、改善策等

- ・学生のアンケート調査によって、改善を行っている。

2024年度「薬学入門Ⅰ」

日程	4月10日(水)	15日(月)	17日(水)	22日(月)	24日(水)	29日(月)	5月1日(水)	6日(月)	8日(水)	13日(月)	15日(水)	20日(月)	22日(水)	27日(月)	29日(水)
教室	34号館2階 研修室1 & 2 ア'レナリーセッション室1&2	34号館2階 研修室1 & 2 ア'レナリーセッション室1&2	「薬物乱用防止研修」	34号館2階 研修室1 & 2 (五郎丸先生より別途連絡があります)	抗体検査 (五郎丸先生より別途連絡があります)	昭和の日	予備日	振替休日	34号館2階 研修室1 & 2 ア'レナリーセッション室1&2	34号館2階 研修室1 & 2 ア'レナリーセッション室1&2	開学記念日	34号館2階 研修室1 & 2 ア'レナリーセッション室1&2	予備日	34号館2階 研修室1 & 2 ア'レナリーセッション室1&2	予備日
3限	P1、P2、P3	P1、P2、P3	クラス担任 P1、P2、P3	菅奈奈美 P1、P2、P3					P1、P2、P3	P1、P2、P3		P1、P2、P3		山中智香 P1、P2、P3	
4限	P1、P2、P3	P1、P2、P3	クラス担任 P1、P2、P3	菅奈奈美 P1、P2、P3					P1、P2、P3	P1、P2、P3		P1、P2、P3		山中智香 P1、P2、P3	
5限		P1、P2、P3							P1、P2、P3	P1、P2、P3					
授業内容	「今心にあること（希望、期待、不安）」についてSGD（KJ法）	「人にやさしい薬・良い薬（薬の種類や分類）」についてSGD（KJ法）	Cerezoのコース「薬物乱用防止研修」を使っての対面での研修を実施する。	【ヒューマニズム・コミュニケーション】行動変容のための役立ち感と幸せについて気づきの学習をする					「薬剤師の仕事の種類」についてSGD（マインドマップ）	「病院・保険調剤薬局の薬剤師の仕事」についてSGD（イメージマップ）		【事前学習】 1. 見学でのマナーならびに注意点などを討議する。 2. 見学への質問内容について討議する		【マナー・コミュニケーション・薬剤師について】薬学生としての心得や理想の薬剤師について学ぶ	

日程	6月3日(月)	5日(水)	10日(月)	12日(水)	17日(月)	19日(水)	24日(月)	26日(水)	7月1日(月)	3日(水)	8日(月)	10日(水)	15日(月)	17日(水)	22日(月)	24日(水)
教室	予備日	予備日	中間試験期間										海の日	34号館2階 研修室1 & 2 ア'レナリーセッション室1&2	34号館2階 研修室1 & 2 ア'レナリーセッション室1&2	予備日
3限					病院の薬剤部を見学 (いずれかの日)									P1、P2、P3	P1、P2、P3	
4限					保険薬局を見学 (いずれかの日)									P1、P2、P3	P1、P2、P3	
5限														P1、P2、P3	P1、P2、P3	
授業内容					体験学習	体験学習	体験学習	体験学習	体験学習	体験学習	体験学習	体験学習		発表準備	発表会	

大学教育センター